






議 長	局 長	次 長	主 幹	書 記
				

別記様式

平成31年2月8日

養父市議会議長 様

養父市議会議員 田路 之雄



研修成果報告書

養父市議会議員研修要項第7条の規定により、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 研修日時 平成31年1月10日（木）～平成31年1月11日（金）
- 2 研修先 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号
公益財団法人 全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研究所
- 3 研修目的 本研修では、平時・災害発生時・復旧・復興期というそれぞれの段階において、議会や議員にできることを考え、地方議員の果たすべき役割について考えることを目的とする。
- 4 成果（具体的に） 平成30年度 市町村議会議員研修（2日間コース）
「防災と議員の役割」

1月10日 13:00～14:30

「地域防災力を向上させるために（講義）」

講師：東京都立大学・首都大学東京 名誉教授

明治大学 研究・知財戦略機構 研究推進員 中林一樹 氏

(1) 21世紀は、荒ぶる自然と脆弱化する地域社会

○超々高齢社会の到来～高齢化率が急増して地域社会が崩壊

○コミュニティの崩壊～災害に立ち向かう最後の砦



(2) 「超・超高齢化社会」とは、高齢者に自立・自助が求められる時代

○「自助」こそ基本。「自助なくして共助なし」

(3) 二つの危機管理と防災対策

平時のリスクを最も小さくすることでクライシスが決まる。
平時の対策が問われる。

○リスクマネジメント（リスク管理）

発生する可能性のあるリスク（潜在している危機）に対して、事前に「リスク軽減」及び「リスク対応の準備（計画・訓練・備蓄）」を実施する“危機管理”

○クライシスマネジメント（クライシス管理）

発生したクライシス（顕在化した危機）事態に対応し、その拡大を防ぎ、迅速に収束させる“危機管理”

(4) 地域の防災力を高める「防災まちづくり」を進める。「防災まちづくり」の基盤は、「ひとづくり」「ことづくり」「ものづくり」で楽しい防災の歯車を回す。

○防災を、“忘妻”（亡妻ではありません）して楽しむ仲間が出来ると、それが防災まちづくりを展開させる。

○“ひと・ことのみちづくり”が展開しないと、ハードな“まちづくり”にはつながらない。

○“楽しく、防災する”遊び心を大切にする。「楽しく防災している」と人が集まってくる。

(5) 「超高齢率社会」にどのように備えるか

支援者の割合が低下し、要支援者のほうが多くなる「超・超高齢社会」だからこそ、

① 高齢者こそ「自助」すべき

支援者が不足するので、高齢者も我が家の耐震化・家具固定・食料の備蓄など「自助」で被害を軽減

② 「自助」が「共助」を可能とする。

「自助」で被害を軽減した人が「共助」を可能とする。

③ 「自助」と「共助」が「公助」を有効にする。

「自助・共助」の地域の余力が、人手が不足している「公助」を有効に機能させる

1月10日 14:45～15:55

「平時の防災と議員の役割（講義）」

講師：跡見学園女子大学観光コミュニティ学部

（元板橋区危機管理担当部長、前区議会事務局長）

鍵屋 一 氏

○阪神淡路大震災当時の高齢者は、全国で約 717 万人、現在は、約 1750 万人で従来型の避難訓練は役に立たない。東日本大震災の死者の教訓として、高齢者が約 6 割、障害者の死亡率は 2 倍と体力がなく、地域とのつながりが弱い⇒近所や福祉とのつながりが今後は大切

○防災の正四面体として、自助、（新たな）共助、近助（従来からの共助）、公助があり、多様な主体が連携して地区防災計画をつくる。しかし、今後のリスクマネジメントとして、下記の点に対処が必要となる。

- ① 高齢化がどんどん進む
- ② 単身世帯がどんどん増える
- ③ 近所づきあいは減っている
- ④ 町内会自治会活動への参加も低下、減り続ける消防団員数
- ⑤ 公助にも限界が…減り続ける自治体職員

●なぜ人は逃げないのか…正常性の偏見「自分は大丈夫」…自分にとって都合の悪い情報を無視し、過小評価してしまう人間の特性（DNA）～これと闘うのが防災かもしれない。

1 月 10 日 16 : 00 ~ 17 : 30

「平時の防災と議員の役割（演習）」

講師：鍵屋 一 氏、浅井 恵美子 氏

「災害時の議会・議員活動」をテーマとし、各テーブル席に 5 人一組に分かれて「大災害時に議会、議員が効果的対応するために」を自由討論し、気づいたこと、発見したことを自由にポストイットして、ワールドカフェで話し合っ、知恵、教訓を共有した。

1 月 11 日 9 : 00 ~ 13 : 35

「災害時の避難所運営を経験して（事例発表）」

講師：熊本市東区若葉校区自治協議会 事務局長 峯山秀次郎氏
熊本市東区役所総務企画課 主査 漆野 和也 氏

（コーディネーター） 鍵屋 一 氏

○熊本地震の際、熊本市の中で震度 7 が 2 度も発生するなど被害の大きかった東区において、地元の自治組織のリーダーとして避難所の運営にあたり、行政と避難者の橋渡し役となり大変な苦勞

をされた峯山氏の経験を中心にお話しいただき、行政の対応や議員としてどのように住民と関わり、役割を果たすことが求められているかについて勉強した。

○ 2人の講師から事例発表の後、受講者10名の議員から、避難所での現場対応等について講師の先生方に真剣な質問があった。その中で、災害時の避難所には十分なスペースがなく、個々のプライバシーの問題もある。そこでテントを活用してのキャンプの提案などの素晴らしい発想の意見もあった。

1月11日 13:00~13:35

「災害時・復旧・復興期の議員の役割（講義・演習）」

講師：鍵屋 一 氏、 浅井 恵美子氏

○講義の後、ワールドカフェ形式で各テーブルに分かれて議員として何ができるかをグループで議論した。

1月11日 13:45~14:45

「ふりかえりとまとめ（講義）」

講師：鍵屋 一 氏、 浅井 恵美子氏

○受講者全員で集合し、2日間の研修の総括を行った。

○災害時の議会・議員活動において、議員の行動指針として

① 自らが被災しないように準備する

災害直後は、落ち着いて安全の確保すること
人命第一

② 地域での支援活動をする。

③ 情報の収集と地域への提供すること。

④ 個別の要請は避けて地域の情報は議会に集約すること。

⑤ 地域と議会・執行機関との橋渡し役をすること。

○防災の決め手は「ご近所力」

人や地域のつながり＝信頼の絆＝ご近所力

「人間は一人では生きていけない」普段から隣人や友人と交流し、「良い人間関係、近所関係」を築くことが最も大切である。

そして、排除される人がいない魅力ある地域を作ることが、災害や危機にも強くなる。今後起こると言われている南海トラフ巨大地震に備えて、今から「自助」「共助」の心を育てていこう。